

令和5年度 市政懇談会 ゆかり市長とまちかどトーク 議事録要旨

開催日時・会場・参加人数

開催日時 令和5年6月27日(火) 19時00分から20時28分まで
会場 諏訪市四賀公民館 講堂
参加人数 23人

金子市長3期目マニフェストの概要及び地区の関連事業について

■国道20号諏訪バイパスについて、四賀小学校の敷地・建物の活用について、飯島橋について

【発言者】

国道20号諏訪バイパスの方向性が定まってきたことは、完成までにまだ時間がかかるとしても、承知した。

四賀小学校の敷地・建物は、地元住民の意見を聞いて有効活用してほしい。また、子どもたちが充実した学校生活を送ることができるよう整備を進めてほしい。

飯島橋の取り壊しにより、子どもたちは広瀬橋や車橋まで出て通学している。歩行者だけでも通行できる橋をかけることができないか検討いただきたい。

【市長】

施設一体型小中一貫校の整備は、これから懇談の場を設ける。皆さんの意見を聞きながら進めたい。

飯島橋は、コンクリートが落下する危険性があり、網をかける対策等をしていたが、市長就任後、安全のために撤去した。橋をかけるには多額の予算がかかることだが、不便を感じている状況もお聞きしたので皆さんの意見を聞きながら検討したい。

■施設一体型小中一貫校への不安について

【発言者】

小中一貫校について、子どもたちも保護者も不安に思っている。今年度の入学式で校長から小中一貫教育が始まった旨の説明があったが詳しい情報はなかった。もしかしたら情報提供がされていたのかもしれないが、隅々まで行き渡っているということではなかった。そのため、保護者の中には「来年から始まるのではないか」というような誤解が生じていた。開始の時期、通学方法、普門寺や細久保方面からは距離が遠くなることについての不安も出ている。何かしらガイドラインが出ているのであれば、早めに知らせていただけると保護者や地区の話し合いが楽になるのではないかと考えている。これからどのような流れで進むのか、また、どのように周知していただけるのかお聞きしたい。

【市長】

既にスタートしている上諏訪小学校、上諏訪中学校は、隣接した校舎での併設型小中一貫

校。小学校の児童が中学校の校舎に行き、英語の先生から英語の授業を受けたり、数学の先生から算数を教わったりしている。小中学校の9年間で広い人間関係を作るという流れが始まり、子どもたちからとても評判が良い。今年から、全ての小学校と中学校で交流を始めている。

ハード面では、築60年になる四賀小学校や新たな住宅の増加で児童数が増えて窮屈になっている中洲小学校など、建て替えが迫っている学校もある。これらの課題がある中で、9年間の小中一貫義務教育学校として施設も一体にした学校にリフォームしていく考え方。全国にも長野県にもいくつかの先進事例がある。諏訪市教育大綱を作成し、定めた目標に向かうにはその方法がふさわしいのではないかと提言している。1年や2年でできるものではないので、今スタートしないとどんどん遅れてしまう。通学の距離など様々な不安があると思うので、皆さんの意見を聞く機会を設ける。

【教育長】

不安を解消できるように迅速な情報提供を行わなければならないと思っている。

現在、教育委員会として決定している事項はないので、この場で具体的にお示しできるものはないが、これから推進委員会を立ち上げて意見をいただく。いただいた意見は、逐次皆さんに提供していく。

推進委員会で決定した先に基本構想ができ、その後、基本設計、実施設計、着工という流れになるがスケジュールは未定。通学路についても未定。皆さんから意見を頂戴して協議をしていただき、合意を得て決定事項となる。

【発言者】

不安に思っていたことを聞かせてもらい、少し安心した部分もある。これからPTAの皆さんとも話ができると良い。

【市長】

上諏訪小学校の開校にあたり、経過措置として城南小学校の通学区の子どもたちが特例的に上諏訪小学校を選択できるようにするなど、皆さんの希望をお聞きして柔軟に対応した経過もあるため、意見を聞きながら取り組みたい。

■地域でのつながりを作ることについて、子どもの通学の安全確保について

【発言者】

現在の構想では、細久保、武津、普門寺の子どもたちが諏訪南中学校のあたりまで通うことになる。特に細久保、武津は、どちらかというとな諏訪中学校が近いという意見もある。だからといって諏訪中学校に通う方が良いということをお願いしたいのではなく、小中学校の9年間で四賀地区の子どもたちが一緒に過ごす時間を作るのが大切ではないかと思っている。諏訪地域特有のことでは、御柱祭は四賀地区と豊田地区が一緒に行うので、子どもの時から地域のパイプを作ることが必要だと思う。そう考えると、通学距離が遠くてもみんなで学校

に通って同じ場所で勉強するというのも大切という意見もあることをお伝えしたい。

また、通学に関しては、距離が遠いことだけでなく、踏切、中門川、上川といった河川、国道、サンリッツロードといった交通量の多い道路などの危険箇所についても気にかけていただきたい。特に小学校1年生、2年生の子どもたちにとっては危険が多い。例えば、スクールバスなど危険のない通学について考慮していただきたい。コンパクトシティの構想の中で二次的交通の話が出たが、スクールバスはそのことと絡めて検討してはいかがか。

【市長】

市でも通学路の安全確保についての心配の声が上がるのではないかと推測しており、これから立ち上がる推進委員会で出た意見に加えて検討課題としていきたい。皆さんからも継続的に意見を寄せていただきたい。

スクールバスの件は、その可能性もあると思っている。

■通学路の整備について

【発言者】

現在、飯島と赤沼の子どもたちは、車橋を渡って四賀小学校に通っている。2人並んで歩くことができないくらいの幅の県道神宮寺諏訪線や国道を渡った先の道路など危険な通学路があるので、施設一体型の小中一貫校を建設する前に、子どもたちが安全に通学できるような通学路の整備を考えていただきたい。

【市長】

通学路も同時に検討して進めたい。今いただいたような意見を、推進委員会に寄せていただきたい。

フリーテーマ

■保育園保護者会の駐車場整備について、国道を横断する信号機について

【発言者】

保育園の保護者会で駐車場整備作業を行ったが、駐車場のライン引き、柵の修繕、草刈りなど力作業が多かった。保護者会の役員を引き受ける人は母親が多く、参加者のほとんどは女性であった。父親で参加できたのは自分を含めて2人で、力作業は女性だけではかなり大変だと感じた。作業当日、近所の人から「以前は市が作業を行っていた」と話しており、いつから保護者会が作業を行うようになったのか、なぜ保護者会で行うようになったのか疑問に思った。保育園の子どもを持つ保護者が就業することの難しさもあるし、子どもと触れ合う時間として週末を大切にしたい思いもある。マニフェストに、子育て支援、子どもの自立、働き方改革、女性活躍、男女共同の育児が掲げられているので、整備作業を市で対応いただくことを要望したい。それにより保護者の負担も軽減できる。

また、四賀小学校の通学路の中で、国道を渡る信号機が3か所ほどある。朝は特に交通量が多いと感じている。安全性を考慮して歩車分離式や交互通行にしていだけないか。

【市長】

保育園の整備に参加いただいていることに感謝を申し上げます。保護者会から市に現状を報告していただき、要望として出していただきたい。市も率先して働き方改革を進めなければならない。「ゆう活」や子を持つ親である職員が時差出勤をするという仕組みがある。全ての企業でそのような仕組みが整っていないことも承知している。みんなで協力して、子育てが嫌だと思われたい、子育ては楽しいと思ってもらえるような社会を作っていきたいという希望を持っている。状況を聞きながら対応したい。

国道を渡る信号機については、公安委員会の管轄になるが、どのような対応が可能か検討してもらいたいので、要望として届け出てください。

【健康福祉部長】

保護者会の役員を担っていただいていることに感謝申し上げます。担い手が不足する中でお引き受けいただけることを大変ありがたく思っている。

市でも、子どもと向き合う時間に充てられるよう、保護者会、保護者の負担をどのように軽減するか、保育士の働き方をどのように変えていくのかということを考えている。駐車場の整備までは行き届いていないが、一例として、おむつの回収や保育のICT化により、保護者、保育士双方の負担の軽減、利便性の向上に向けた取り組みを行っている。

保護者会で借り上げている駐車場であるため、保護者会で整備をお願いしている現状にご理解をいただきたい。整備に必要な砂利などの原材料の提供はさせていただく。保護者や地域の皆さんの力をお借りしながら子どもの育ちを支えていきたい。過度な負担が生じるようであれば、保育園やこども課に相談をしていただきたい。

【市長】

学校は、「未来創造ゆめスクールプラン」にのっかってスタートしているが、保育園も「“ひろがる笑顔” ゆめ保育所プラン」を作った。保育園の規模の適正化、適正配置、民間活力導入という三本柱の改革プラン。

コロナ禍の3年半は、PTAの皆さんに集まっていただいて懇談会をすることが難しい状況だった。子どもたちと日々接触する保育士が感染症に配慮する中で、無理に進めることはせず留保していたが、今年度から改めてスタートしようと3期目のマニフェストに入れたので、このような課題があることを含みながら検討したい。

■地域教育について

【発言者】

地域教育は、町全体で未来を担う子どもを育てていくということだとは思いますが、その目的を理解しきれていないので教えていただきたい。

【教育長】

諏訪市教育大綱が示す指針を実現するための諏訪市教育振興基本計画に地域教育の方針がある。人をどう育むのかということが基本にある。学校でも地域でも生涯教育というくくりに入っていると考えている。生涯学び続けるということから考えると、学校で学ぶ、地域に出て学ぶ、社会の中で学ぶ、というように、いろいろな学びの場があると考えれば良いのではないかと考えている。

子どもたちは、学校教育の中に地域の人々が入ることの意味を知らずにいる。通学路上に何かあっても、どのような意味があるか知らずにいる。地域の人と関わることで地域にある良さや地域の財産を知る。知ることで、将来的に地域に帰って来て活躍する人や地域で学んだこと、地域にあるもの・ことを財産として他の地域で活躍する人が出て来るとすれば、地域のつながりが大切ではないかと思う。

目的を一言にするのは非常に難しいが、ここで言う地域教育は、町全体で未来を担う子どもを育てていくというまとめにした。また意見交換を願っていたと思っている。

【発言者】

子どもたちが地域の人と関わる機会として、どのようなことを考えているかお聞きしたい。

【教育長】

諏訪市教育大綱の中では、「学びを礎として世代を超えて協力し合い、誰もが幸せに生きることができる社会のづくり手となれること」という部分で、年齢を超えて混ざり合うような学びを実現したいと考えている。

そのためにコミュニティスクールを生かしたいと思っている。これまでは、地域の人に学校に来てもらい、学校での学びを支援してもらうことがメインになっていたが、今年度からは子どもたちが地域に出て地域と関わる活動をしていく。一方的な地域の人への支援だけでなく、学校が地域で社会のづくり手となるような活動をしていくということ。具体的には、ものづくり科の授業で家族に何かを作るのではなく、地域にどのようなニーズがあるかをリサーチして、それを形にして地域に還元するというようなこと。また、ある中学校では、カーブミラーを磨く活動を行うというように、学校の中だけに閉じ込めるような教育ではなく、学校の外に出て、そこを学びの場所にするような教育を進めたいという考えを持っている。

■地区の温泉に対する支援について

【発言者】

manifestoの「GX（グリーントランスフォーメーション）の実践」に、温泉の活用がある。日頃から地区の温泉を利用しており、この文化は継続してほしいと思っている。どの地区の温泉も利用者が減っており、そのことに伴って収入も減少している。一方で、水道料金、下水道料金が増加して、あと何年継続できるだろうかという声も聞こえてくる。高齢者が多くなり、若者が少なくなる中で、地区の努力が大切なことは承知しているが、市から地

区の温泉に対して、下水道料金や温泉料金の支援をしていただけないか。支援により安くなれば、地区の住民も利用するのではないか。地域の文化としての温泉を継続するために検討いただきたい。

【市長】

人口が減少し、人々の生活パターンが変化する中で地区の温泉の利用者が減っている状況がある。温泉のことをマニフェストに入れたのは、温泉が自然のエネルギーであることから。昨今の気象状況を鑑みても、みんなのできることから地球環境に対する取り組みを行わなければならないという思い。温泉は、天与の恵で温かい水が地下から上がってくる。これを利活用できることは、諏訪の地の人のアドバンテージであるので、みんなで上手に使おうというメッセージ。

過去には、独自で温泉開発、掘削をすることで近隣の温泉が枯渇したり争いが起きたりした。温泉は大切な財産であることから、市では温泉統合を行い、市で温泉を管理して給湯するという全国でも珍しいシステムを取り入れた。温泉は、公営事業として行っている。事業が破綻してはいけないので、引き継いだ者として継承できるよう、皆さんから意見をいただきながら利活用のアイデアを出したい。多くの皆さんに共同温泉の文化をつないでいただきたい。

最近では、市外から移住し、古い家をリノベーションしてビジネスを始める人も多くなってきた。諏訪に移り住んだ人の中には、若い世代でも共同温泉が気に入っているという人もいます。みんなで盛り上げられると良い。

今すぐに「こうします」という答えがなくて申し訳ないが、課題としては承知したので研究したい。

以上

開催日時・会場・参加人数

開催日時 令和5年7月3日(月) 19時00分から20時13分まで
会場 諏訪市豊田公民館 講堂
参加人数 34人

金子市長3期目マニフェストの概要及び地区の関連事業について

■文化センターの保存活用及び改修に関する基本設計予算の削除について

【発言者】

文化センターの保存活用は、ここまで来るのに何年もかけて大勢の人が携わってきた。議員がその経過を無視して賛成しないということに非常がっかりしている。文化センターはどうなってしまうのかと不安。議員は、個人の意見を主張するのではなく、市民の代表者として、みんなの意見をまとめてほしい。自分が知らないのであれば勉強して、それから意見を言ってほしい。

国や県が予算をつけようとしているものを、なかったことにしてしまうと諏訪市の信頼がなくなるのではないかということが一番心配。今後、何か事業を行うにしても「諏訪市のことだから、またどんでん返しがあるかもしれない」と思われてしまうことを危惧している。そのようなことになったら、諏訪市はどんどん遅れてしまう。この先のことにかかなり影響があるように思うが、考えを聞かせてほしい。

【市長】

議会閉会のあいさつで申し上げたとおり、今後のことを危惧している。上諏訪駅周辺まちなか未来ビジョンも、国や県からかなりの支援をいただきながら取り組んできたが、文化センターもその一環。文化センターは、基本設計に関する補助金の内示をいただいたところだった。内示をいただくまでに、何年も前から相談をし、目途が立ったところで予算として計上するのが行政の仕事。その積み上げてきたものが通らないとなると、お話しいただいたとおりの懸念がある。信頼を失わないために何ができるか考えなければならないが、市民の代表として市議会に出ていただいているので、議員の皆さんに理解をしていただかないことには予算が通らない。理解をしていただくための努力を続けていく。

文化センターは、市内で約900人を収容できるホールとしてただ一つの施設。60年が経過しているので、現在の建築基準法に適合していない部分を修理することで安心して利用していただけるように修復したいが、何年も先送りすることでそのタイミングを逸してしまうことを心配している。できるだけ速やかに行いたいと思い、段取りをした。長く放置すると使用を停止しなければならない時期が来る。皆さんにご理解いただけるとありがたい。とても残念な思いではあるが、市民の皆さんからも議員の皆さんにそれぞれの思いや意見を伝えてほしい。

議会、市長、職員の大きな責任だと思って、諏訪市の将来のために粘り強く取り組みたい。

■諏訪湖スマートインターチェンジ完成によるメリットとデメリットについて

【発言者】

これから中学3年生の生徒たちと、諏訪湖スマートインターチェンジ完成に伴うメリットとデメリット考えようと思っている。市が考える諏訪湖スマートインターチェンジ完成に伴うメリットとデメリットはどのようなことがあるかお聞きしたい。

【市長】

中学生と市のテーマを語っていただく機会を作っていただき大変うれしく思う。

日本の高速道路は、一定の距離でインターチェンジがある。諏訪インターチェンジから長野方面に向かうと、次のインターチェンジは岡谷インターチェンジで、諏訪市と茅野市の境にある諏訪インターチェンジからは約15Km。道路を作ったときの事情もあるだろうが、一般的なインターチェンジ間の距離のおよそ倍の長い距離である。諏訪湖サービスエリアからは諏訪湖を見渡すことができる素晴らしい景観で、恋人たちの聖地の認定もされた。風光明媚なところだが、ここで高速道路を降りたいと思っても、次のインターチェンジまで7～8Km を走ってから戻らなければならない。逆方面も同じことで、観光したいと思ってもすぐに降りられない状況があるが、諏訪湖スマートインターチェンジができることで降りられるようになる。

さらに、リニア中央新幹線の駅のこともある。甲府市や飯田市にできるリニア中央新幹線の駅は、高速道路沿いにできる。在来線の甲府駅からリニア中央新幹線の甲府駅は、約10Km 離れている。駅の周辺には駐車場が整備され、リニア中央新幹線を利用する人は、車で駅まで行き、車を使わない人はおそらく高速バスで行くことになるだろうという想定をしている。北信方面は新幹線、南信方面はリニア中央新幹線と、長野県の真ん中の松本・諏訪地域は高速鉄道のアクセスでハンディキャップを背負ってしまうことになるが、その対策が必要ということで、諏訪湖スマートインターチェンジは、上下線とも大型車が乗り降りできるフル規格である。

医療の関係では、市内に三次救急に対応する諏訪赤十字病院がある。高速道路を降りて、湖畔を走るとすぐに信州大学病院に次ぐ高度救急医療に対応できる病院にアクセスできる。また、素晴らしい企業が市内に集積していることから、ビジネス関連での利便性が向上する可能性もある。

災害時の物流道路としての機能も忘れてはいけない。過去に災害が起きた際、国道、県道、高速道路がストップして湖周は37時間に及ぶ交通まひが生じた。そのような時に物流道路として高規格の安定した道路が必要だという要望があった。

スマートインターチェンジが完成すると、交通の流れが変わることが予想される。安全に通行できるようにしなければならないので調査をしながら対応する。

■諏訪湖スマートインターチェンジ完成の見通しについて

【発言者】

今のところ、諏訪湖スマートインターチェンジの竣工は来年の3月と発表されている。毎日、工事の様子を見ているが、3月の竣工が難しいのではないかとと思っている。市の見通しはいかがか。

【市長】

昨年、地質の課題があったため補正予算を計上し、予定している3月の竣工を目指して工事中。今のお話を聞いて、予定より遅れるのではないかとのご心配があることも承知した。

【建設部長】

来年3月の完成を目標に努力している。梅雨の時期やこれからの台風シーズンで不測の事態が発生することも考えられるが、工程等確認しながら日々進捗している。状況が変われば発表する。

【市長】

順調に進めば今年度末に供用開始になる。諏訪湖スマートインターチェンジ完成後、江音寺方面に県道が延伸することを期待しており、それが1日でも早く進むよう応援していくということをマニフェストに記載した。

■道の駅について

【発言者】

諏訪地域には、道の駅が少ない。もし、諏訪地域で道の駅の話があるのなら、場所としては諏訪湖畔が良いと思う。道の駅に関して何か話があるのかお聞きしたい。

【市長】

時折、「道の駅をつくってほしい」という声をいただくことがある。道の駅は、町と町の間にある自治体や山の中にあることが多い。諏訪市は、街なかにある。空洞化した街の店舗をリフォームするなどして復活してきた。歩いて楽しいショッピングができる街を希望している人もいらっしゃる。山中の大きな道路沿いで地域の産物を買ってもらう環境とはまた違ってくるのではないかと考えている。

数多くある店舗の中に、さざなみ新鮮市のように、大規模でなくても地域で採れた産物を手に入れることができる場所が存在するのは大切なことだと思う。市が主導して道の駅を作るより、街なかで頑張っている皆さんを応援する方が、地域の産物を多くの人に楽しんでいただく機会が増えるのではないかと。

民間の皆さんが自主的に動き出すことに「ノー」ということはなく、ウェルカム。頑張ってくださいことは良いことだと思っている。市が公費で道の駅を作ることにしてはいかかかという思いがあるので、皆さんの意見をよくお聞きしなければならない。がっかりさせてしまったとしたら申し訳ないが、様々な形があると思うので詳しい話を希望されるようであれば相談していただきたい。

フリーテーマ

■公設地方卸売市場の廃止について

【発言者】

令和6年度末を以って公設地方卸売市場が廃止になる。廃止後、食の供給機能を継承する新

たな仕組みを導入するという事になっている。現在、大規模農家は農協が集配しており、基準に定められた方法で農産物を出荷しているが、小規模農家は、公設地方卸売市場に出荷している。公設地方卸売市場が廃止になると、小規模農家は農産物を持って行くところがなくなってしまう。国では、大規模農家を中心に考えているように見えるが、小規模農家が困ることのないよう検討をお願いしたい。

【市長】

公設市場の機能は廃止するが、現在利用されている人が困ることのないようにしなければならない。2年間の猶予をいただいて、検討委員会で意見を伺いながら進めたい。

【副市長】

卸売市場法に基づく公設市場としては、令和6年度末で幕を引くことで市場審議会から答申をいただいた。廃止後にその場所を使って、小規模農家の皆さんが農作物を出荷するというような生業が成り立つ場所にしていくための議論が始まっている。検討の場に生産者にも入っていただいているので皆さんの声を聞きながらまとめたい。意見等あれば、市場の事務所にお寄せいただきたい。

■舟渡川の土手の草刈りについて

【発言者】

舟渡川に面した世帯のみが年に5回ほど草刈りを行っている。高齢化が進み、のり面の傾斜がきつく、思うようにできない。業者や親戚に依頼したり、個人で自走の草刈機を購入したりする状況。河川管理は県の管轄なので、区を通じて県に要望しているが、県は実施しないとのこと。見た目が悪く、散歩する人や遊ぶ子どもがいるので草刈りをやらないわけにはいかない。市から河川管理者の県に草刈りをしてもらおうよう働きかけてもらうことはできないか。

【市長】

地域の美化にご協力をいただき感謝申し上げます。

舟渡川は、一級河川のため県が管理する河川。市でも普通河川、準用河川等含めてたくさんの川を管理している。草刈り等は市民の皆さんの協力をいただきながら行っているのが現状でご協力に感謝する立場だが、危険を冒してまでお願いすることはできない。皆さんが日々暮らす環境の整備をご厚意で行っていただいていることに本当に感謝している。

県には、要望があることを伝える。現状を見てもらい判断していただくようお願いする。

■大雨時の区での対応について

【発言者】

6月2日に、諏訪市内ではほとんど降雨がなかったが上川と宮川が増水した。その際、避難指示は出ていなかったが避難者がおり公民館で受け入れた。一気に河川が増水し、危険性が高く、恐怖感を覚えたことと思う。その後、下水道の使用を控えるよう市の防災行政無線放送

が流れた。もし、避難指示が出て、公民館等に避難者が来た時に、下水道の処理能力を超えているためにトイレを使用できないのであれば大変困ると思った。

原因としては、不明水の問題があると思う。今後の市の対策と災害が発生した場合、区としての対応方法をどのようにしたらよいかお聞きしたい。

【市長】

避難されてきた人を受け入れるという判断をしていただいたことに感謝申し上げる。

諏訪6市町村に立科町を加えた7市町村の下水が豊田終末処理場に入る。令和3年に、下水の蓋が開いてしまい内水が溜まったところに汚水が混入しご迷惑をおかけしたことがある。下水道事業がスタートして40年ほど経過し、老朽化した下水管に亀裂が入っているのかずれているのか分からないが、どこかに隙間があり、多くの降雨があった時にその隙間から雨水が流入してしまう。これを不明水と言ひ、昨年、県と一緒に調査を始めた。

今年度、市では調査の続きを行い、どのような対策をすれば良いかという段取りをしている途中である。改修が必要な部分の特定にまで行き着いておらず申し訳ない。

そのような中で先日急な大雨が降った。下水が溢れてしまわないよう、お風呂の水を一気に払うようなことを控えていただきたくお願いをした。

避難所に限らないが、トイレが使用できないということは過去にもあった。そのような時に簡易トイレを用意していただくことは大切。

下水管の総延長距離は、何百キロメートルにも及ぶが調査により大きな穴は早く見つけて対策をしたい。ご迷惑をおかけし、申し訳ない。

以上

開催日時・会場・参加人数

開催日時 令和5年7月4日(火) 19時00分から20時21分まで
会場 諏訪市中洲公民館 講堂
参加人数 34人

金子市長3期目マニフェストの概要及び地区の関連事業について

■河川の改修について、南部地区施設一体型小中一貫校について、要援護者台帳への登録方法について

【発言者】

現在、宮川の茅野市側の改修が行われている。南町区でもこれまで河川が決壊する危険性を感じてきており、現在もそのような状況。宮川の諏訪市側の視察をしていただき、改修をお願いできないか。河川を改修すれば、避難経路も確保できると思う。

施設一体型小中一貫校は、全国的にも魅力的な学校になると思うので、実現してほしいが、教育委員会からの説明の際、子どもが道路を横断する危険性や距離的に遠くなることへの配慮としてスクールバス等の検討が必要ではないかという意見が出ていた。先ほどの河川改修と関係するが、南町区の防災拠点の中洲小学校なので、河川が崩れると逃げ場を失ってしまう。諏訪南中学校だけでは避難場所が少ないので、防災の拠点として学校の跡地の活用を検討していただけるとありがたい。

現在、民生委員と一緒に要援護者台帳への登録の活動をしている。茅野市では、該当者に事前に登録の必要性の有無を郵送で回答してもらっていると民生委員から聞いた。諏訪市では、個別に訪問して、その都度説明をした上で登録の必要性の有無を確認している。民生委員と区長が協力しながら円滑に進められるよう、登録方法の検討をしていただけるとありがたい。

【市長】

宮川は、一級河川で改修等は県の事業。防災等のソフト面では市も現地の視察等を行い、住民の皆さんの意見を汲み取りながら県に要望を伝えていく。文書でいただければ、関係部署と共有した上で県にも要望することができるのでお願いしたい。

南部地区施設一体型小中一貫校の具体的なことは、これから皆さんと懇談を行う。スクールゾーン、通学路、スクールバスのことなど、四賀地区の市政懇談会でも質問が出たが、今後詰めていく中で話題になると思うので意見を寄せていただきたい。

新しい学校の場所が決定しているわけではないが、中洲小学校の跡地の利活用については、防災の拠点としての希望があることをお聞きした。ほかにもいろんな可能性があると思うので、どのように利活用できるか意見をお聞きしながら方向性を出したい。

要援護者台帳の登録については、地区によって様々な方法があると思う。茅野市の方法も有効という提言をいただいたので、今後役に立ってほしい。

【健康福祉部長】

要援護者台帳と支え合いマップは、区長会で説明し、民生委員の皆さんにもお願いをしてい

る。要援護者台帳への登録方法は、課題を整理しているところ。防災対策なので、地域がともに助け合って支える仕組みは非常に大切と考えている。良い事例を聞かせていただいたので、今後に生かしたい。区の中で話し合いをしていただいていることを大変ありがたく思う。

■南部地区施設一体型小中一貫校について

【発言者】

小中一貫校の整備については、魅力的なことなのでぜひ進めていただきたい。なかなか学校に行くことができない不登校の子どもたちが学校だけでなく学びの場を選択できるというところまで構想を広げて、南部地区が全国の課題のケーススタディーになるような取組をしていただきたい。フリースクールでボランティアを行っているので、どのような形が子どもたちにとって良いのか、行政と話をさせていただきたい。

【市長】

かつて、学校は行かなければならない場所であった。今は、様々な事情で学校に足が向かない子どもたちがいるという現実がある。未来の教育への大きな課題の一つと考えている。

【教育長】

とても大事な課題についてご指摘いただいた。学校に行きづらい、行かれない子どもたちが示していることは何であるか課題を整理したいと思っている。いくつかあると思うが、多様な価値観がある中で、現在の学校ではやりたいことを実現できないことが理由の一つではないか。実現する場所としてフリースクールや自宅でというような状況ではないかと思っている。諏訪市教育大綱に示した考え方を基本にして、学校に行きづらい子どもたちがどのようなことを実現したいのか、それを実現できるような学校づくりを皆さんと一緒に取り組みたいと考えている。

■南部地区施設一体型小中一貫校について

【発言者】

中洲地区は、子どもが多い地区。分譲住宅なども増えており、まだ子どもは減らないと感じている。小中一貫校になると規模の大きな学校になると思うので、一人一人と向き合う学校になるのか心配がある。

また、特別支援学級が増えているのでパソコン教室を特別支援学級にしたということも聞いた。新たな学校の特別支援学級についてお聞きするには早い段階だと思うが、何か考えがあればお聞きしたい。

【教育長】

今年度の児童数で考えると、四賀小学校と中洲小学校を合わせて920人の学校規模になる。小学校で900人規模の学校は、長野県内に約30校あるが、大規模校にあたる。大規模校は、教頭が2人配置されるなど、教員配置が手厚くなる。諏訪南中学校の生徒数を合わせて1,30

0人規模になる学校で多様な子どもたちがそれぞれ自分らしく学ぶことができる環境、空間を作ることになる。これまでの学校は、どちらかという、一つの教室の中で効率よく同じことをみんなで学ぶことが大事にされてきた。その枠に収めようとする、いろいろな課題が出てくる。どのような教育をしたいかに合わせて学校の施設も柔軟にしていかなければならないと思っている。全国に誇れる学校にしたい。

特別支援教育については、現在、インクルーシブ教育を進めている。諏訪市教育大綱にも示しているが、もともと全ての人とは多様であることを前提として、自分らしく学ぶことや生活ができる社会を目指していく。小中学校で考えると、地域の子どもが地域の学校で学べる権利を保障する教育システムを作っていくものと考えている。すぐに実現できるわけではなく、そこに向かうプロセスをみんなで歩んでいこうということ。その中に特別支援学級も必要。人と違うと見られる子がいるかもしれないが、その子が人と違うと考えるのではなく、その子を包み込めるような社会になっていないので、包み込めるような社会、学校を目指すべきだと考えている。

■学校のトイレの洋式化について

【発言者】

令和5年度当初予算の概要に約4,700万円で四賀小学校、中洲小学校のトイレ洋式化工事を行うことが書かれている。この予算で今年度中に全て改修するのかお聞きしたい。

【教育次長】

今年度中を予定している。

■モンテッソーリ教育について、文化センターについて

【発言者】

移住者の視点でこうしたら良いのではないかとということをお話したい。

子どもが幼稚園に通っており、モンテッソーリ教育によりとてもものびのびと過ごし、健やかに成長している。日本では、小学校に上がる時にモンテッソーリ教育の選択肢は少ないので、いろいろな教育手法が選択できるようになれば、諏訪市に住む人だけではなく、市外からも注目されるのではないかと。

文化センターでは、歌舞伎の公演が行われたりするようだが、このような施設は長野県内に結構あるのか。緞帳など良いものがあるので、文化センターで何かやるから見に行きたいと皆さんが思う施設なら残す価値があると思う。また、儲かる施設なら残した方がいいと考えたりもする。何か付加価値を付けることができれば皆さんに理解してもらえるのではないかと。文化センターを残した方が良いと思っているので、ぜひ応援していきたい。人口減少が進む中で、こういった町であるべきか、残すものと畳むものを取捨選択していかなければならないと思うので引き続き応援したい。

【市長】

移住者の目線は大切。将棋をしている人よりも将棋盤の周りにいるギャラリーの方が次の一手が読めるということがあるように、一生懸命やっていると見えないことが周囲の人には見えるということもある。

文化センターは、昨年60周年を迎えた。市民の皆さんにその価値をより広く知っていただきたいと思い、広報紙にその特色を示したり、パネル展示等でメッセージを出したりした。

文化センターのホールは、間口が広く、残響音はあまりない。そのため、オーケストラ、合唱、西洋音楽をやろうとするとあまり響かず、岡谷市のカノラホールの方がよく聞こえる。言葉を発する、歌舞伎、文楽、落語、能などに適している。昨年、一昨年は、能、狂言に来ていただいた。観世流の家元に来ていただいて市民芸術祭を行うなど、少しずつその活用の価値を市民に知っていただく努力を重ねてきている。

全国35～36か所のホールの残響音を調べた結果、残響音が一番少なかったのは大阪の国立文楽劇場で、文化センターは2番目だった。共鳴板を後ろに並べると反響するので、音楽を使用する際はそのような工夫をしながら使ってきた。地域の出身の歌舞伎役者もいらっしやるので、今後もその価値を知っていただく努力を続けていきたい。アドバイスをいただき感謝申し上げます。

フリーテーマ

■不登校について

【発言者】

市長が県議だった際に、県議会で初めてフリースクールのことを取り上げていただき、それから寄り添っていただいているような感覚がある。

コロナ禍とともに不登校が増えた。運営しているフリースクールでも不登校とひとくくりにはできず、一人一人の子どもにどう関わるかを考える必要がある。本日、阿部知事と不登校の支援者とのタウンミーティングがあり、Zoomで拝聴した。阿部知事は、各地域でよく話し合っしてほしいとまとめていた。10歳の不登校の子がタウンミーティングに参加しており、その子は「学校は探求心や好奇心を潰すがフリースクールでは得られる」と話していた。子どもがみんな探求心を持っているかというそうでもなく、何をしたいか分からない子どもたくさんいる。学校教育一本ではなく、特区という考え方も出てきた。そこで、諏訪市も特区を考えてみてはどうかと思う。フリースクール等に関する公的認証制度の創設が検討されているので、不登校の現状をもっと知っていただき、市長、教育長を含めたタウンミーティングの開催を提案したい。また、市長自身が不登校についてどのように受け止めているかお聞きしたい。

【市長】

以前は、学校に行かれない理由として、いじめに遭っていて、それが親や先生に見えていない、子どもたちも絶対に言わないということがあった。その後、発達障がいへの理解が十分でないなど、様々なことが複層的に重なり合う時代があった。その渦中で苦勞された人がいらっしやることは承知している。現在では、発達障がいへの理解やいじめの問題と不登校の問題が全く一緒ではないということをもんがが捉えられる時代になった。

子どもたちにもいろんなチャンスがあり、興味があることを学習しようと思えば、インターネットを活用して行うこともできる。しかし、学校で学ぶ価値として、何かを覚えたり、考えたり、聞いたり、習ったりということ以外に、社会性やコミュニティの中で生きていく知恵を身に着けること、友だちを作ったり、喧嘩したり、仲直りしたりというノウハウを身に着けていくようなことがある。試行錯誤して、泣いたり、笑ったり、怒ったりというように感情をぶつけながら大人になっていくことも大事だと思う。また、地域の大人たちと関わることでその土地の文化を継承するような価値もある。だからといって絶対に学校に行かなければいけないかという、学校に行くという枠にとらわれていた時代からは少し緩やかになった現状があるのではないか。

学校の先生たちは、フリースクールの先生やインターネットを通じた通信教育で通っている学校の先生とコミュニケーションを取り、情報共有をして学校に来られない子どもたちを見守ってくれることもある。多様性の重視やインクルーシブ教育の社会にシフトしている渦中にある。私たちがこれまで生きてきた中での価値観を押し付けるのではなく、新しい時代の発想や価値観に寄り添うことが大事。それらを汲み取って策定したものが諏訪市教育大綱。

■パブリックコメント受付時の対応について、DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進について

【発言者】

第二次諏訪市教育振興基本計画(案)のパブリックコメントを提出した。提出した内容を理解していただき、パブリックコメントの実施結果に記載していただいたことは良かったが、プロセスの中にかかかと思う部分があった。電子メールでパブリックコメントを提出したが、「コメントを受け付けました」や「ありがとうございました」という反応がなく残念に思った。かなりの時間を使って第二次諏訪市教育振興基本計画(案)を読んで提出した。何かしらの反応があっても良かったのではないか。

DXについては、地域の課題を解決するようなものではなく、業務の効率化を図ったというようにいわゆる行政DXが多かったように思う。正直なところ、企業であれば自分たちの業務を良くしたということを対外的に発表するところはほとんどなく、期待外れだった。マニフェストにDX戦略が載っているが、これはどの地域のどんな課題を解決しようとしているのか。DXは、デジタル化することではなく、これまでの考え方を抜本的に変えるようなもの。もうひとひねりして深めてほしい。

【市長】

市役所のDXは、地域DXでないという指摘と受け止めた。取り組んでいることを報告している現状。地域の課題をデジタル社会でどのように解決するかということについては、提案をいただいて考えていくものと捉えている。提案があったら教えていただきたい。人材不足の中、人に代わるものとしてデジタルを取り入れなければ仕事が追いつかない部分もあると思う。現在は、これまで申請時に何度も同じようなことを書く必要があったものを簡素化して皆さんの負担を減らす「書かない市役所」のようなことに取り組んでいる現状。地域DXについては、

勉強させていただきたい。

【企画部長】

DXは、先ほどお話しいただいたとおり仕組みを変えていく考え方。市の業務で市民の皆さんに直接の影響があるとすれば、住民登録などが主になるので、その部分に取り組んでいる。これは、国全体で取り組んでいる。地域をつなぐことに関しては、地区と行政をつなぐシステムができないかという要望をいただいている。パソコン等を活用して市から発信する情報を各地区で受け入れる仕組みを作ることができないかというもので研究をしているところ。市役所の仕事も大きく変わる過渡期を迎えているので逐次情報を出したい。

■家庭での防災への備えに関する周知について

【発言者】

梅雨の時期や台風の時期に大雨が降ると、下水道の使用を控えるようにアナウンスがある。周囲の人からは、「トイレを我慢した」、「トイレを我慢するのが嫌で帰省した」という話を聞くことがある。大雨の際、下水道が流れないことはすぐに解決できる問題でないことを理解しているが、トイレを我慢することがないよう、家庭でできる簡易トイレの作り方などを市民に周知してはどうか。

【市長】

雨が降るたびにトイレを我慢することは体に悪いので、使用していただいて問題ない。何年か前に大雨が降った際、下水道が逆流してしまったことがある。そうなるとトイレは流れなくなるので使用できないが、先週のような協力要請の時は、お風呂の水を払うように一度に大量の水を流すことを控えて欲しいという趣旨。下水道は、約40年経過し、下水道管が古くなって亀裂が入っているためか、雨水が流れ込む課題がある。どこから雨水が流れ込むのか調査をしている段階なので、大雨が降った際、下水が溢れないよう協力をいただきたい。

トイレを我慢することは体に良くないので、お金をかけずにできる簡易トイレなどのアイデアを皆さんに知っていただく機会を作りたい。

【水道局長】

市民の皆さんから、なぜ不明水が問題になっているのか、節水要請が出るけれどもなぜ節水する必要があるのか、いつまで節水する必要があるのかという声を聞くことがあるのでアナウンスする必要がある。広報紙やホームページに掲載し、周知したい。

以上

開催日時・会場・参加人数

開催日時 令和5年7月6日(木) 19時00分から20時16分まで
会場 諏訪市湖南公民館 講堂
参加人数 33人

金子市長3期目マニフェストの概要及び地区の関連事業について

■市の財政状況について、道路の補修について

【発言者】

諏訪市は、県下で3番目くらいの借金をしている。事業を行えば借金が膨らむのではないかと。今後、諏訪市はどうするのか心配している。

西街道は、大型トラックが中央線を越えて走行するような状況があるので新川バイパスを早く開けてもらいたいが、住民は、今不便なことを解決してもらいたいと思っている。県道に段差があるが、一向に直らない。市道なら、市のホームページにもあるように市役所に連絡を入れれば直してもらえるが、県道なので県に連絡しても直らない。こういった、日々の生活で困っていることにすぐ対応してもらいたい。

【市長】

諏訪市は、将来負担比率が高いと言われている。主な理由は、土地開発公社所有の土地に関係する。事業を行うための土地を、市が購入する前に土地開発公社が購入し、事業化するとき市が買い取る仕組みだったが、まだ土地開発公社が所有しているので、いずれ市が買い取らなければならない。銀行から借りた資金で購入しているので金利もある。また、現在の土地の評価額は下がっているため、土地の評価額が高い時期に購入したものは、高い買い物であるというような課題がある。これが、諏訪市の将来負担比率が高い理由。

引き継いで歴史を背負った者としては、誰が悪いという議論には意味がないと思っている。できる限り将来に負担を残さないための努力をしなくてはならない。負債は段々減っている。事業化するときには一度に買い取らなくてはいけないので、事業費のことは考えている。市の税金だけで賄うことはできないので工夫する。諏訪市を倒産させるわけにはいかないのでマネジメントする。

借金をすることに対して心配があるかもしれない。2~3年のわずかな期間で消費するようなものに対する借金は、してはいけない借金だと思っている。道路や橋、文化センターなど、建設する、改修するというものは費用がかかる。今、生きている私たち以外に、これから生まれてくる人たちも何十年の間使うもの。今いる人たちの支え合いとこれから世代を超えて同じものを使う人たちの支え合いは、応分の負担をしてもらうという意味で借金の意味があると思っている。借金は、財政に急激な負荷を与えない仕組みでもあるので、ご理解いただきたい。

財政力指数という指標もあり、諏訪市は県内で財政力指数が高い。これは、力のある自治体だと評価されていると思う。皆さんに心配をかけないようにしたい。

日々の不便なことを早く直して欲しいということについては、そのとおりだと思う。市では、道路に穴が開いていたら通報いただくようお願いしている。道路の傷によって石が跳ね、車両

を傷つけるようなことがあれば補償する必要がある。安全に使っていただけるよう、維持管理を行う責任があると思っている。県道の件は、市からも県に要望として伝える。

【発言者】

市の収支について、把握していない職員もいると思う。市の職員も勉強しなくてはいけない。

【副市長】

行政が仕事を進める上で、起債という言い方をするが、借金をして事業を行わざるを得ないことはある。身の丈に合った借金であるべきということは当然のことだと思う。当市の借金が身の丈に合ったものであるかどうかを職員も良く知るべきだという意見だと思う。部局長も課所長も十分承知をしているが、さらに職員一人一人に市の財政状況を伝える努力をした

■上諏訪駅周辺の一体的整備について

【発言者】

上諏訪駅西口、文化センターの改修、諏訪湖イベントひろばの総合的な開発を1日も早く進めてほしい。10年ほどの時間はかかったが、駅前交流テラスすわっちゃオが完成するなど、上諏訪駅東口は良くなった。上諏訪駅西口も進めていただきたい。

柳並線が延伸したので、観光バスが入ることもできる。観光客が入って来れば、飲食店や物販が栄える。商業者の多くは進めてほしいと思っている。補助金が付くこの機会になぜ、議員は反対したのか。今がチャンスなので実現していただきたい。

【市長】

理解していただいている市民の皆さんがいることは嬉しいこと。反対された議員の皆さんにもそのような声が届けばと思う。反対された議員の皆さんからは、必要がない、費用がかかり過ぎる、計画が見えないと言われている。努力が足りていなかったと思っているので、挽回できる可能性がある間は、限られた時間の中だが真剣に取り組みたい。応援していただける人から議員の皆さんにも声を届けていただけると嬉しい。

■県道岡谷茅野線の大型車通行規制について

県道岡谷茅野線の大型車通行規制は、何年も前から区長会で要望事項として挙げているので承知いただいていることと思う。6月14日に午前6時半から8時半の2時間の交通量調査を実施したところ、中洲方面から入って来る車が886台あった。そのうち、旧道に入る車が515台で、58%の車が入って来る現状。少しでも早く大型車の通行規制が実現できるように尽力していただきたい。

【市長】

新川の権現沢から直線で中央道の橋脚を抜ける道路にすることで、直角に曲がらないと旧

道に入ることができなくなるという道路改良の計画がスタートしている。時間はかかるが、完成すると大型車も自然に新川バイパスに入るようになる。大熊で10年ほどの間に7件の死亡事故が発生しており、早くバイパスを造ってほしいという要望があることは承知しており、大型車の通行規制はできるだけ早く行いたい。

【建設部長】

県道岡谷茅野線の大型車の通行規制については、6月14日に長野県警察本部、諏訪警察署、諏訪建設事務所、県議、諏訪市で意見調整を行った。概ね実施する方向ではあるが時期はまだお伝えできない。県警でも重要路線と認識しており、大型車の通行規制に前向きな話をいただいている。実施の日程が決まり次第、お知らせしたい。

フリーテーマ

■なかよし広場の運営に関する課題について

【発言者】

なかよし広場の運営は、市から委託を受けて運営委員会が行っている。運営委員会の母体は、湖南地区社会福祉協議会。湖南地区社会福祉協議会は、地区のボランティア団体なので、市が管轄するものではないが、現在、湖南地区社会福祉協議会の役員の引き受け手がないために解散の話が出ており、解散すればなかよし広場の運営ができなくなることから、この先も運営できるよう市に関わってもらうことはできないか。

【市長】

湖南地区社会福祉協議会には重要な部分を支えていただいている。超高齢社会になり、社会の状況が変わってきた中で、地区の役員等の引き受け手がなく困っている地区がいくつもある。これをクリアする知恵の出どころだと思っている。区長をはじめとした様々な役は、引き受けてくださる人の苦労があるので、安易に誰かがやればよいとは言えない。支え合いの中で継続できることが大事だと思っている。これまでと全く同じようにやらなければならないということが重荷になっているのであれば、内容を見直す必要がある。どなたかをお願いするのであれば、周囲でその人を支える仕組みが必要。

災害を想定すると分かりやすいが、地域のコミュニティは大切。まず、自分の命は自分で守らなくてはならない。その次に、身近な人たち。家族であれば家族、居合わせた人であれば居合わせた人が助け合うことが大事。以前、下馬沢で土石流が発生した際は、地区の人が周囲の人に「いつもと違う変なおいがする」、「大雨が降っているからみんなに声をかけて避難してくれ」と言った後に土石流が来た。声をかけて避難したから犠牲者がいなかったわけだが、日ごろの付き合いがないと声をかけにくい。地域の人々の情報が共有されていて効果を発揮する隣近所の支え合いの力は大事。

湖南地区は、諏訪市の中で一番に地区の防災組織を作った。そのような地区であるからこそ、湖南地区社会福祉協議会という福祉的な支え合いの仕組みが続かないことは不思議な気がする。どのような理由で役員の引き受け手がないのか紐解くことで解決策を見つけられるので

あれば良いが、担当課にこの話を伝えるので、相談してほしい。

■マイナンバー関連業務に係る市職員の負担について

【発言者】

マイナンバーについて、情報の紐づけに関するトラブルが発覚したためにチェックが必要で、国から自治体に短期間でチェックするよう指示が出るようだが、具体的な方法が示されておらず、自治体は困っているという新聞報道を見た。この報道を見て、大変な作業になるのではないかと推測した。新型コロナウイルス感染症に関連する業務でも感じていたが、市職員は大変な思いをしているのではないか。今回も、このようなことが起きて作業に当たる職員の負担が過重になると困る。過労死などの心配もあると感じる。諏訪市はどのような見通しでチェック作業を進めるかお聞きしたい。

【市長】

市職員の心配をしていただき感謝申し上げます。先日、総務省の職員から電話をいただいた。全ての自治体が全てのチェックをする必要があるかということ、そうではないとのこと。全国いくつかの自治体で誤りが指摘されているが、その自治体にどのような指導がされるのか、まだ具体的には分からないがいずれ示される。今のところ、当市はその自治体には当たらないと考えている。

【市民環境部長】

ご心配をいただき感謝申し上げます。今後、国から手順が示されるものと思う。スムーズにマイナンバーが利用できるよう、チェックを行う。

【発言者】

業務に当たる職員に大きな負担がかかり、そのことで健康を害するようなことがあってはいけない。国からの指示を何でも受け入れるのではなく、無理なことは無理と伝えるべきではないか。

【市長】

これまでも、全国市長会などの組織を通じて交渉をしており、課題はあるが、地方分権改革の中で国の命令によって地方が動くという仕組みではなく、国、県、市町村が対等協力の関係にあるので、申し上げるべきことは遠慮なく伝える。心配をいただく応援団がいらっしゃることをうれしく思う。

■市民に分かりやすい情報提供について

【発言者】

市から発信される通知などは分かりにくい。また、お金の徴収に関わることで根拠がないものがあつた。直すように伝え、いくつか直してもらったが、システムの関係で直すことができない

いものもあると聞いた。今一度見直しをして、本当にこれで良いのか、分かりやすいものであるか、根拠が示されているかを考えてほしい。

【市長】

行政用語として使用する言葉が、一般的な用途では別の意味になるという経験をしたことがあり、言葉の解説や別の表現をすることは大切だと感じている。

【副市長】

個別に相談させていただきたい。

■市政懇談会への市民の参加状況について

【発言者】

これまでの4回でどのくらいの市民が参加したか。

【副市長】

四賀公民館 23名、豊田公民館 34名、中洲公民館 34名。

【発言者】

市民がどれほど関心を持っているかという意味でお聞きした。本日の参加者は、区長などが多いと思う。区の役員などでない一般の参加者は少ないのではないか。

以上

開催日時・会場・参加人数

開催日時 令和5年7月14日（金） 10時00分から11時32分まで
会場 諏訪市文化センター 第一集会室
参加人数 58人

金子市長3期目マニフェストの概要及び地区の関連事業について

■上諏訪駅周辺の一体的整備の見直しについて

【発言者】

上諏訪駅西口広場、文化センターの改修工事、諏訪湖イベントひろばの件は、単体ではなく、面で示したことによって、国の支援を受けられる方向性が見えた。その中で、議会が否決をしてしまった。市政の向こう50年を誤ったのではないかという思いを強くしている。

諏訪湖イベントひろばは、以前から大きな課題であって、県からの支援を再三お願いしていたと思うが、年に1回から2回程度大きなイベントを開くばかりでは支援ができないというような声も入ってきている。そんな中で、この3つの拠点を面で示して国からの支援を可能にしたのかと思うと大変見事な案を出していただいたと思っている。どの工事も単体で考えれば多額の費用がかかるので、市の財政だけで賄い切れるものではない。その中で一つの方向性が見えて話が進み出すかと思っていた。これを否決されたとなれば、同じ計画のままでは、議会は承認ができないのではないか。何か新しいものを付け加えることによって、この計画が実現可能になるのか。それともまたゼロから出発しなければいけないのか。方向性を教えていただきたい。

今月中に議会の承認が得られれば方向性が見えるとお聞きしたが、新しい計画を付け加えることで理解が得られそうであるか具体的に教えていただきたい。

【市長】

議会で削られたのが文化センターの基本設計に関する予算。基本設計の予算は、何かを付け加えれば通る、通らないという趣旨のものではないように思う。議会からの提案があるならば聞きたいと思うが、今のところ届いていない。

■上諏訪駅周辺の一体的整備の推進について

【発言者】

上諏訪駅西口周辺や諏訪湖イベントひろば等は、諏訪市が発展していくための重要拠点で良くしていかなければならない場所。文化センターは、産業の歴史からも残すべき重要文化財。長期にわたる計画が議会で否決され、非常に残念に思う。国、県からの支援が受けられるという話も聞いたので、もう一度検討していただきたい。

■上諏訪駅周辺の一体的整備の推進について

【発言者】

6月定例会で文化センターの基本設計に関する予算が削除されてしまい非常に残念だっ

た。これまで、手順を踏んで進めてきたことであり、そうでなければ議会に上程することもできない。1期目の議員の皆さんはこれまでの経緯が分からないということはあると思うが、2期目、3期目の議員の皆さんはその経緯を承知されている。これからの諏訪市の10年先、20年先を見ると、このチャンスを逃すことは市民の損失が大きいと感じるのでぜひ推進してほしい。

【市長】

令和3年に社会文教委員会で資料を提示し、28億円という金額を示した。また、その前提や背景、計画との関連性などを総合して示し、議員の皆さんからもぜひ進めるべきだとの声をいただきながら進めてきた経過がある。

■上諏訪駅周辺の一体的整備の推進について

【発言者】

議会で文化センターの基本設計に関する予算が削除されたことに憤りを感じた。ぜひ、文化センターの改修を実施してほしいと思っている。以前に比べて元気がなくなっている諏訪市を活性化するための計画と認識している。過去にも、鉄道の複線化や国道20号諏訪バイパスなど、大きな話が出ると反対して話がなくなってしまうことがあった。そのようなことがないように、諏訪市を活性化するスタートとして進めてほしい。2期目、3期目となる議員の皆さんもおられるが、これまでの経過を承知しているにもかかわらず反対することには憤りを感じる。

【市長】

国道20号諏訪バイパスは、予算が付いて事業がスタートした後に反対があり、50年かかって復活した。順調に進んだものを途中で止めると、回復が大変だと感じる。

■全国の自治体の文化財維持の状況について

【発言者】

文化センターの改修は、議員の皆さんも全くやめてしまおうという話ではないと思う。文化財を保護する考え方は素晴らしい。問題は費用面で、気持ちだけを強く表しても仕方がないと思う。多額の改修費用のほか、その後の維持費も相当かかると思う。全国的には、自治体が単独でこれだけの文化財を維持しているところがあるのか。

【市長】

28億円という金額を耳にすると驚かれるかもしれない。資材の高騰もあり、この金額より高くなると推測している。国の補助金やふるさと納税、企業版ふるさと納税を活用するといった工夫をして進めることで、借金である起債を少なくすることができる。今すぐに消費してしまうようなものに対して借金をして後世にツケを回すことには賛成できない。しかし、道路や橋などの構造物、文化センターのような施設は、これから生まれてくる子どもも

何十年と利用できる。将来、利用する人たちも応分に負担をするという意味では、負担の公平性があると思っている。

【副市長】

全国の自治体の中で、文化センターの保存活用に匹敵する費用を投入している自治体があるか否かについては、資料を持ち合わせておらず申し上げることができない。

諏訪市は、年間約200億円の予算。そのうち、約120億円が一般財源で市が用途を判断できるもの。この120億円に対して28億円の投資がどうであるかということで考えていただきたいと思うが、その一部は文化庁、国土交通省からの補助金を活用する計画なので、市の持ち出しは少なくなる。これは、3つの事業のうち文化センターに関するもので、上諏訪駅西口広場、諏訪湖イベントひろばはこれから検討する。将来を見据えてこの3つの事業を進めていくことで国の補助金が得られやすくなるということで計画をお示ししたことを補足した。

【発言者】

税収だけではなく、その施設を活用して収入を得る工夫をしている自治体があると想定していたので、そのような事例を探して創意工夫で維持することを考えないといけない。

【市長】

全国の中に参考となる事例があるかもしれないのでリサーチをしたい。ご意見は、ランニング費用の部分の参考にさせていただきたい。

■市民への情報の伝達と市民の財政的な負担について

【発言者】

今回の文化センターの保存活用計画の進め方はいかがなものかと思う。物事は、計画をしっかりと立てること、伝える人がしっかりと知っていること、聞く人がしっかりと知っていることの3つが一体で正確に伝わると教えられてきた。文化センターの保存活用に関して、計画の柱ができていいのか疑問。また、伝え方はどうであったか。市民への情報の伝え方、市民の理解を得る方法が適切でなかったのではないかと。市長にこれまでの経緯を聞き、大変苦労されたことはよく理解したが、一般市民にはほとんど伝わらない。マニフェストに書いてある、議会で報告しているということではあるが、広報紙に挟み込むなど何か工夫していただきたい。

また、何より心配なことは、事業にかかる経費の市民負担。市民1人あたりいくらになるか知りたい。さらに、諏訪市がデフォルトになることはないのかも心配。国からの補助金やふるさと納税で賄うことができるのであれば、「大丈夫」と言ってもらいたい。

【市長】

計画を最初に示したのは市議会に対してであるが、市議会議員は市民の代表として出て

いただいているので、まず敬意を持って議員の皆さんに示すのが筋だと思っている。その後、市民の皆さんに理解をしていただく機会を作り、知っていただく努力をする。

当市がデフォルトになることがないのかとの話があったが、そのようなことがないようにマネジメントするのも市役所の責任と思っている。実施計画でおよそ3年先までを見通しながらマネジメントしており、15年先まですべて示すということとはできないが、その時々で責任を持って進め、市が倒れないよう継続して努力する。各事業は、議会に諮って議決をいただいた上で実行しなければならない。市は責任を持って事業を実施するが、その判断するのも議会。議会と行政は、車の両輪だと思っているので、互いに分かりあう努力を続けたい。

各事業について市民の皆さまにどのくらい負担していただくということはなく、財源の中で調整しながら事業を進めている。市民1人当たりどのくらいという算出は、誤解を招くこともあるので示していない。

■文化センターの基本設計に関する予算の承認を得る見通しについて

【発言者】

上諏訪駅周辺の一体的整備について、非常に期待していた。国からの補助金を断るか否かの期限が今月末とお聞きし、あと3週間ほどで目途が立つとお考えか。議会の承認を得る見通しについてお聞きしたい。

また、市の約200億円の予算のうち28億円と考えると、何とかなるのではないかという気もするので、金額の問題で議員が反対しているのかどうかと思う。話し合いなどでクリアして事業を進めていただきたい。自分たちが住むところが良くなることを期待しているので、一市民としてバックアップしたい。

【市民】

これからの3週間で再度チャンスをいただきたいと思っている。多くの市民の皆さんの声をお聞きしたので、議員の皆さんと一緒に、市の将来を思いどのような判断ができるか結論を得たい。良い方向に進めるよう期待を持っている。

フリーテーマ

■諏訪湖畔のカラスについて、若年層の利用を見据えた文化センターの在り方について

【発言者】

諏訪市湖畔公園のD51機関車の近くの木にカラスの巣があるのを見た。公園の中に巣があると、子育て中のカラスが観光客を襲う危険性もある。そのような心配があるということをお伝えしておく。

文化センターの基本設計に関する予算が削られたことについて、周囲の人に話を聞いてみたが、市民の関心は高くないと感じた。話をして初めて知った人もいるし、過去に文化センターを利用したことがある人の中でも改修するのはいかがなものかと話す人もいる。また若い世代の皆さんは日頃から文化センターを利用していない。改修後の文化センターを利用するであ

ろう若い世代の皆さんが、どのように利用するか見据えておかなければならないと思う。

【市長】

カラスは自然の生き物で、法の縛りもある。情報を共有して対策を考える。

文化センターの利用率は、近隣と比較して高い。どの世代の人々にも使い勝手が良いようにというご意見として承る。

■歩道の整備について、移住支援について、公共交通について

【発言者】

東京都から移住をして来て気付いたことをお伝えしたい。回答をいただきたいわけではなく、情報共有。可能な範囲で検討していただきたい。

市長が、「皆さん、歩きましょう」と提唱され、とても良いことだと思っている。しかしながら、柳並線を一本入ると歩道の状態が悪い。現在、車道は整備しているが、歩道にも関心を持っていただきたい。キャリーケースを引いて歩くと、キャリーケースの車輪が傷んでしまう。観光客の様子を見ていると、キャリーケースを引いて整備された車道を歩いている。

また、側溝のふたを開けた後、持ち手の向きを揃えないまま閉めることで、つまずきやすくなっているところがある。持ち手が破損しているふたは、代わりにビニールひもを輪にして付けているが、輪の部分に足が引っかかってしまう。さらに、狭い道に電柱が食い込んでいるところもあり、雨が強い日は傘を差したまま隙間を通ることができないので車が途切れたところを見計らって車道を走って移動するような状況がある。

移住支援について、ワンストップ窓口を検討していただきたい。移住する前にホームページを確認したところ、駅前交流テラスすわっチャオの中に移住の相談窓口がある旨が掲載されていたので出向いたところ、相談窓口はなくなっており市役所に行くよう言われた。市役所に出向いたところ、とても丁寧に説明をしていただいたが、欲しい情報がなかった。こちらから聞かないと生活に必要な情報や避難場所などの情報が出て来ず、インターネットの検索サイトで検索した方が早いのではないかという状況だった。市役所で話を聞いた後、公共職業安定所への行き方を聞いたら、歩くには距離があるがバスはないと言われ、日を改めて出かけた。さらに、駅前交流テラスすわっチャオの“Tsunagu”（諏訪商工会議所と諏訪市が共同運営）で起業の支援をしてもらえると知り、興味があったので出向いたところ、定員に達しているので新規の受付はできないと貼り紙がされていた。対応する人が全員稼働中なのか気になったが尋ねることもできず帰ってきた。

諏訪市に限らず、全国的に空き家対策が重要なことは承知しているが、東京から移住してくるとマンションが便利。庭があって犬が飼える一軒家だからということではどれほどの若い世代の人が来るであろうか。タワーマンションに住んでいた人が移住するとなると、一軒家という選択はしないように思う。空き家対策に加えて、そのような状況も考えていただきたい。

東京都では、高齢者に年間1,000円でシルバーパスを発行しており、車不要の生活ができる。高齢者の免許返納の促進や引きこもりの防止のために東京都のシルバーパスのようなものを検討いただきたい。また、シルバーパスに併せて日帰り温泉マップを発行してみたい。

がか。

【市長】

住んでいると当たり前になって気付かないことに気付いていただいた。市外から来た人の視点は大切に、ありがたい指摘をいただいた。

歩道の修繕は、区からも要望をいただいている。

【建設部長】

現在、中浜1号線の舗装修繕工事を実施しているので今しばらくお待ちいただきたい。お話をいただいた場所は、後ほど現場を確認させていただく。

【市長】

歩道は、シルバーカーでの移動が多くなるなど時代に合わせていく必要がある。見た目で見分けをしたり、物理的に段差をなくしたり、様々な工法がある。例えば、一方通行にして歩道や自転車道を確認するようなアイデアもある。これを実施すると決まっているわけではないが、そのようなアイデアもあるということ。

移住について、非常にいい話をいただいた。今年度は、三菱総合研究所プラチナ社会研究会等が運営している「逆参勤交代プロジェクト」にエントリーしており、企業訪問や農業の視察、意見交換等を行い、東京から地方に移られる人を受け入れるための準備をしている。

駅前交流テラスすわっちゃオのワンストップ窓口は、諏訪圏域6市町村と長野県で運営していたが、様々な事情で一旦閉鎖した。長野県宅地建物取引業協会や諏訪商工会議所の皆さんと一緒に利用者目線のサービス向上に取り組みたい。

住まいはマンションが便利ということについては、民間の皆さんの対応になる部分かと思うが聞かせていただいた。

二次交通に関しては、概ね2年後にAIオンデマンド交通を導入しようとしている。金額的には、タクシーより安価でバスより高額になると思うが、時間的には、より早く目的地に到着することができるようになる。

■文化センターの保存活用計画の推進について、国道20号諏訪バイパスについて

【発言者】

市内で千人近い規模の人数が収容できる施設は、文化センターが唯一。文化財であるか否かではなく、施設の手入れをすると考えると改修が必要だと思っている。金額は、28億円と示されたが、資材の高騰もありさらに高額になると想定される。それでも、国からの補助金を受けながら維持管理をしていくことは重要。昨年、旧東洋バルヴ諏訪工場建屋で外壁の一部が落下する事故があったように、手入れをしなければそのようなことが起きてしまう。文化センターで同じようなことが発生したら利用することができなくなる。千人近い人数が収容できる代替の場所はない。

国道20号諏訪バイパスの整備に関連して、県道、市道の交通量が変わるのが想定される。

観光地である霧ヶ峰のことを視野に入れて整備していただきたい。

【市長】

文化センターに関するご意見は承った。

国道20号諏訪バイパスには、白樺湖小諸線に接触する部分までが今回事業化された。国土交通省からは、残された4.7kmも順次工事が進められるよう、調査を継続する旨を聞いている。今、お話しいただいたのは、元町付近の県道、市道の整備と理解した。国、県、市で情報共有をしながら検討していく。

以上

開催日時・会場・参加人数

開催日時 令和5年7月14日(金) 19時00分から20時47分まで
会場 諏訪市文化センター 第一集会室
参加人数 61人

金子市長3期目マニフェストの概要及び地区の関連事業について

■上諏訪駅周辺の一体的整備の推進について

【発言者】

諏訪市の財政健全度を調べた。令和3年度決算に基づく財政健全化判断(比率実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率)はいずれも問題がなく、市の財政は健全と判断し、結論としては上諏訪駅周辺の一体的整備に賛成。この事業は、市の発展の切り札的事業。市の財政が悪化する、事業の全体像が見えないというような声は、市を思う気持ちとして正論だとは思いますが、事業が頓挫することや大幅に遅れることの方が市民にとってマイナスが大きい。事業を実施しなければその資金が市に残り、一時的には財政的に豊かになるが、その反動として市民生活の利便性の向上等が阻害される。行政自体に生産性はないが、税金を市の事業に投資し、市内に資金を回して活性化することが必要不可欠で、資金を積み立てて残しておくことが目的ではない。適切に事業を実施して、安心安全な市民生活や将来の発展のために資金を活用すべき。今、着手しなければ都市間競争に遅れ、観光客の消費も外に流れてしまう。工場の進出もなくなり、今ある事業所が撤退するかもしれない。そうなれば税収が減少し、市にとってはマイナスになる。この事業を見送って一時的に資金を残すのか、事業を実施して形として残すのかという選択であれば、国からの補助金が活用できる今が一步を踏み出す時。

【市長】

財政事情を詳しく説明していただき感謝申し上げます。財政調整基金等の市の基金残高にも気を配りながら、また、返済すべき借金も徐々に減らす努力をしながら様々な事業を行っている。起債は長期の返済になるが、市の財政に大きなダメージを与えるようなことにはなっていないので安心していただきたい。事業を何も行わない自治体に魅力を感じてもらえるかというところではなく、夢を描ける未来、将来の展望が見えることが大事。市税を預かる責任として、無理をして市が倒れるようなことは行わない。

■文化センターの保存活用計画について

市長は、議会で議員に説明をしていると言うが、上諏訪第2地区から選出された議員はいない。それで説明していると言われても理解できない。何十億円もかかる事業について、新聞報道等の知識しか持つことができない。文化センターを維持することの意味は理解できる。文化センターは、広域避難所に指定されているが耐震基準を満たしていない。災害時などの避難所を開設するのか分からないとも言われた。水害に関しては、今年初めに声かけをしてようやく水路の確認から始まり、これまでに3回の対話の機会を持った。それまでは、

地区の要望書を出すように言われていたが、水害は一地区の問題ではない。この地域は浸水が多い。防災は不可能でも、腰の高さまで来ていた水を15cmくらいまでに抑えられれば、高齢者も自宅の2階に避難できる。これまで市にはそういう考え方がなく、水害が起きてから何とかしようという状況だった。安心安全に暮らすことができるまちづくりというベースがあって今回の文化センターの改修のような話が出てくるならば理解できるが、それもなく突然文化センターの改修の話が出てきた。上諏訪駅周辺は高齢化が進んでおり、空き家も増えている。そのような地域柄を承知しているのか。

文化財的な価値があるから文化センターを残すということに興味はないが、耐震補強をして広域避難所として活用できる防災の拠点にするということであれば賛成と思う。水害に苦しむ上諏訪地区のことを考えていただきたい。

文化庁の補助金を断れば、今後二度と受けられなくなるだろうと思う。他の事業で補助金を受けようとしても厳しいだろうと思う。昨年のうちにとどのような形であれ市民に伝えるべきだった。反対された議員の皆さんが「全体像が見えない」と話すのも分かる。地域の住民に意見を求めることをせずに進んでしまう。絵に描いた餅にしか見えない。市長は市民がいて進めているのか。とてもそうは思えないのでディスカッションをしていただきたい。

【市長】

地域のことを熱心に考えていただいていること、周囲の人々に声かけをいただくリーダーシップを発揮していただいていることに感謝申し上げます。

文化センターが防災の拠点であるということについては、現在でもそのとおり。災害時は、状況を見極めて開設する避難所を災害対策本部が決定する。文化センターが危険な状況でなければ、これまでもそうであったように避難所として開設する。耐震化が遅れてきた現状があり、文化センターの保存活用計画には耐震化も含まれているので進めたい。

市民の皆さんに対する説明が十分でなかったことについては反省している。申し上げておきたいことは、ここにきて説明する状況が整ったということ。基本設計ができれば、周辺地域の皆さんに説明することは必要不可欠で、通常の行政の手続きに含まれていることでもある。市長に就任した際、有識者の皆さんに文化センターの改修についてお聞きした経過もあるが、それら一つ一つを丁寧に市民の皆さんに報告してきたかということ、十分でなかったというのはおっしゃるとおり。今後、議会で認められたならば、進捗状況を丁寧に説明したい。

■上諏訪駅周辺の一体的整備の実施に伴う将来の負担について

【発言者】

今回の件は、優先順位の付け方が間違っているのではないかと。旧東洋バルヴ諏訪工場跡地に避難所を作ってはどうかという意見も出ていると思うが、まずは安心安全な避難場所が必要。

上諏訪駅周辺の一体的整備を行うとなったら二重投資になるのではないかと懸念が

ある。1つのことについて、ある程度全体の計画ができたところで次のことに取りかかれば、どのくらいの規模にするのかが分かる。また、今回文化センターの改修を行ったとしても何十年か後にまた改修が必要。何十億円の費用をかけたことが後々の負債になっていくのではないか。諏訪湖イベントひろば関係の事業費と、文化センターの維持費等の事業費が二重にかかる可能性が生じるという懸念がある。維持管理のバランスシートはどのように想定しているか。

【市長】

旧東洋バルヴ諏訪工場跡地が避難所として重要との話があったが、避難所という建物のイメージではなく、密集したまちなかに7ヘクタールの土地があるので有効に活用すべきという意見が主。現在でも、雪捨て場として活用するほか、災害時のがれきの集積場所として活用できる。大災害の時に仮設住宅を建設する場所がないとすればこの大きな空間は非常に重要。旧東洋バルヴ諏訪工場跡地は産業の発祥の地でもあるので、産業の支援になるような場所にするという議論はしている。まだ決定していることではないので、議論を重ねる中で提案として出していただきたい。

行政は、税収や景気の動向により、長期スパンで全て示すことが難しい。とはいえ、目先のことだけではいけないので、実施計画としておよそ3年先の見通しを持っている。例えば、15年先まで全て見せてほしいと言われても難しいが、財政がどれほど健全であるかということは行政の仕組みの中でコントロールしていることをご理解いただきたい。

【発言者】

上諏訪駅周辺の一体的整備に関して、起債はどのくらいを想定しているか。金利のことも考えなければいけないと思うが。

【市長】

これから基本設計なので仮定の話になるが、考えている国土交通省の補助金を受けることができたとすれば、最大で2分の1。全てにおいて2分の1の補助金を受けられるというわけではないので満額ではないとしても、約30億円の事業のうち10億円くらいの補助金を受けられるとすれば、残りの20億円が起債によるもの。これを20年間で返済するならば、年に1億円ずつの返済。借金の比率とすれば、まだ余裕があると言える。30年かけて返済するならば、さらに少額の返済となる。金利は非常に少ないが付く。

【発言者】

30年後、50年後に、今度は改修でいいのか建て替えが必要なのか分からないが、また何十億円という金額が必要になって来る。それも負の遺産として残るのではないか。

【市長】

市の予算の年間約200億円をやりくりしながら相対的にコントロールをしている。一

つの事業だけを取り上げて別枠で実施するというのではなく、予算の範囲内でコントロールしている。

■上諏訪駅周辺の一体的整備の推進について

【発言者】

文化財的な価値が高い文化センター、市内でこれほど広い敷地はほかにない旧東洋バルヴ諏訪工場跡地と考えると、防災の拠点はこの場所になると想像できる。15億円をかけて耐震化を図るが、これは当然にやらなければならない。市の財政は健全であると説明を聞いた。借金も少なくなっている。この機会を逃してしまったら二度と実施することはできない。文化センターは、今でも屋根の裏側のコンクリートが剥がれてきている。旧東洋バルヴ諏訪工場建屋と同じ状況。文化庁の補助金を受けることができる今、機会を逃さず進めてほしい。

■上諏訪駅周辺の一体的整備の推進について

【発言者】

市の財政は、エビデンスを示して話してもらい、勉強させていただいた。8年も前から議論され、マニフェスト等にも示してもらっていたものを市民の1人としてよく見てこなかったことを反省している。文化庁の補助金は、簡単に決定するものではないと想像する。時は今しかないと思うので、文化センターの改修を早急に進めてほしい。特に耐震化は優先的に考えていただきたい。

上諏訪駅を降りてから回り道をしなければ西口に出ることができない不親切な状況が続いている。花火大会の開催時には臨時改札が設けられるが、諏訪湖側にホテルや旅館が多く、観光客も回り道をしなければならない。過去に、線路の複線化事業の話があったが、それを蹴ってしまい実施できなかったという子どもの頃の記憶がある。それから今まで状況は変わらない。

負債をできるだけ少なくすることは大切だが、市でもそれを念頭に行政運営をしていることと思う。ここに来て、議会で文化センターの基本設計に関する予算が削られたことは疑問に思うが、ぜひ進めてほしい。

【市長】

過去には複線化など大型の事業が進まなかった状況があった。国道20号諏訪バイパスもその一つ。国道20号諏訪バイパスは、地域の皆さんと手を携えて取り組んできた結果、50年ぶりに動き出すことができた。信頼を回復することや市民の合意があるということを理解していただくためには時間も労力もかかることを経験した。そのこともあり、7月までの間で議員の皆さんにご理解いただきたいという期待を持って取り組んでいる最中。

■文化センターの保存活用計画の推進について

【発言者】

文化センターの改修は、タイミングを逃してはいけない事業だと思う。機が熟して今だと

理解している。避難所や耐震化の話になると、重要文化財に指定されている以上、外観を損ねた改修はできないと推測する。その上で耐震強度を保つための工事をするのは、費用もかかるし時間もかかるのではないかと思う。建設から60年が経過し、活用するのであれば今のタイミングで実施するしかない。どんな人がどのような理由で反対されているのか、具体的に反対している理由をお聞きしたい。ぜひ実現に向けて頑張してほしい。

【市長】

このように進めたいと示したものを市長が勝手に進めていいわけでない。市長と同じ母体から選出される15人の議員は、市民に付託されて出ている。二代表制なので、議会の議決がなければ予算を執行することはできない。今回の事業において、どこがいけないのか、何をもって市民が理解したということになるのかは、議員の皆さんに質問をさせていただいたが、明確な理由はつかみ切れていない。市民の皆さんから議員の皆さんに直接聞いていただくのがいいかもしれない。とはいえ、説明不足であったことは反省し、理解していただく努力を継続している状況。

重要文化財に指定されているので、鉄骨等が表出するような工事はできないという部分については、そのとおり。意匠やその価値を壊してしまう改修はできない。耐震化は必要なことなので、目に見えない部分で行う。

【教育次長】

文化センターの改修に関する費用の28億円という試算の中で、耐震化の費用が15億円という数字を示したが、これは文化センターの保存活用計画が前提にあり、その計画にのっとって耐震化を図るものであって、耐震化は別ということではないことをご理解いただきたい。

フリーテーマ

■上諏訪小学校、上諏訪中学校周辺道路の交通規制について

【発言者】

上諏訪小学校、上諏訪中学校周辺の道路が狭く、子どもが事故に遭う危険性がある。また、参観日などは渋滞することがある。先日、学校方面に曲がろうとした車を待てずに追い越そうとした車が、道を渡ろうとした子どもに気付かず、子どもがひかれそうになる場面を目撃した。学校の周辺の道路を一方通行にするなどの安全対策を講じていただきたい。

【市長】

一方通行の可否については、公安委員会が所管しているので相談させていただく。県営桜ヶ丘団地の跡地に市営住宅を建設するにあたり、その敷地を活用して道路を拡張できないかという要望が上げられるなど、道路の整備についてご心配をいただいている状況は承知している。子どもの安全が一番だということはそのとおり。何か工夫できることがあるかもしれないので研究したい。

【教育長】

上諏訪中学校に在籍していた経験やかつての高島小学校に在籍していた経験から、状況がよく分かる。ソフト的なことだけで解決する問題ではないので、関係機関と協力して検討したい。

■学校の集金に係る手数料及び集金方法の統一について

【発言者】

学校によって集金方法が異なる。また、保護者が手数料を負担するか否かも異なる。手数料を負担する学校は、義務教育の9年間と考えると1か月分の学年費以上の金額を負担する計算になる。市内の学校で集金のシステムを一括にし、手数料を負担しない形にしてほしい。

【教育長】

学校の徴収金は、PTAと相談しながら対応している。学校に状況を確認してご不便のないようにしていきたい。

■地区の要望書の提出先について

【発言者】

速度規制、グリーンライン、カーブミラーの設置、歩道の整備等、通学路に関して地区から要望書を出す際、教育委員会宛てに提出するのか、建設課宛てに提出するのかお聞きしたい。

【市長】

要望書は、庁内で関連する部局に共有するので、市長宛てに一括していただければ差し支えない。

■文化センターの保存活用計画に関する補助金について

【発言者】

文化センターの保存活用の話の中で、補助金が活用できるか否かは7月末が期限とお聞きした。議会で、基本設計の予算が削除された状況で、補助金を断らず活用していくためにはどのような手続きが必要かお聞きしたい。

【市長】

今回の件は、補助金の内示が出ているという状況。基本設計の予算が削除されたので、事業として実施しないのであればお断りしなければならない。断るか否か判断する期限が7月末。補助金を活用するためには、議会に予算を認めていただくしかない。予算を認めていただければ補助金を断ることはしないが、認めていただけなかった場合には使わない補助金をキープしていることになるので迷惑をかける。ここで立ち止まることになったので、少し待っていたい。市民の理解が深まっていないという理由だったので、もう少し頑張ってみよう

お願いしている。

■今後の市の方向性と市民との意見交換について

【発言者】

これまでの文化センターに関する話は、去年の今頃にお聞きしていれば何の問題もないと思う。今月末までに議会の承認を得たいから本日の市政懇談会を開いているのか。この場合は、市長を応援している人が多くを占めているような気がする。

7月末のリミットを前に焦っているようにしか聞こえない。市長と議員が勝手にやっている事のように見える。市民に何も伝わってこない。なぜ伝わってこないかは難しい。行政は、全ての市民の意見を聞いては何も進まない。市長がどうしていきたくかを聞きたい。どのような思いでどのようなことをして諏訪市を引っ張っていきたくかが分からないのでそれを聞きたい。

【市長】

市政懇談会は、年度の計画の中で予定していることであり、毎年度実施している。支援者を集めたわけではないことは誤解のないようにお願いしたい。

昨年もっと話題になっていけばという点については、そのとおり。議会に対しては、2年前の3月に金額を示していたが、市民の皆さんにもっとしっかりお伝えしておく必要があったと感じている。

選挙にならなかったのが今質問をいただいたようなことを伝える機会がなく残念であった。諏訪市をどのようにしたいかということについては、マニフェストの1ページ目に9項目を示している。時間の都合もあるので、お時間のある時に詳しくお話しさせていただく。

【発言者】

今の流れからすると今月末までに何とかするのではないかという雰囲気。事業を進める際、市民や地区に必ず情報を示し、意見を求めることをするか否かが知りたい。この市政懇談会のような場をその都度設けていては、行政は仕事にならないと思うので、事業のポイントになる部分では毎回対話や意見交換を行う気持ちがあるか。

【市長】

毎回というのがどのようなタイミングかということは難しいが、事業を進めていく過程で市民の皆さんにお示しする機会を作りたい。市民の皆さんの代表として議員の皆さんが選ばれているので、まずは議員の皆さんに理解をしていただくことは重要だと思っている。

【発言者】

上諏訪第2地区の選出の議員はいない。

【市長】

当選した15人の議員の皆さんは、地区からの推薦を受けて出ている議員もおられるが、全域を対象として当選されている議員もおられるので遠慮なく伝えていただいても構わない。また、行政にも直接意見をいただきたい。

【発言者】

直接市に伝えることにする。

以上